

学校等への侵入事案が急増

桃太郎っ子サポートラインより
(岡山県警察本部)

先日届いた「桃太郎っ子サポートライン（号外）」の内容は以下の通りです。

- ◆ 県内各署において、数人の少年グループによる学校等への侵入事案が多数発生しており、非行率の増加要因となっています。
- ◆ 今後も類似事案の発生が予想されますので、未然防止に向けた各種対策が必要です。

事例1

高等学校へ侵入し、黒板への書き込みや配置物件の移動異、屋上への上がり込み等をした。

事例2

空き家に、肝試し目的で侵入した。

事例3

閉鎖中のスポーツ施設の屋内プールに肝試し目的で侵入し、ネットを破る、看板の損壊等をした。

学校での防犯対策をお願いします

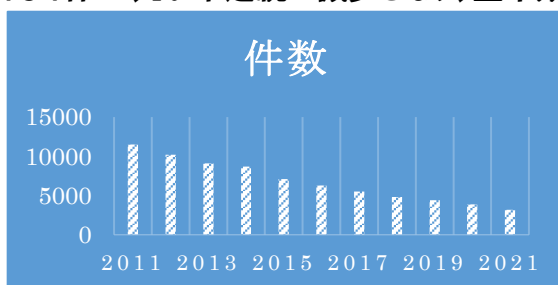
- ◎ 学校敷地内の防犯対策の徹底
 - ※ 防犯カメラの設置及びメンテナンス
 - ※ 看板等の設置
 - ※ 門扉等の施錠
- ◎ 非行防止教室の開催
警察職員が児童・生徒及び保護者に対して注意喚起を行い「建造物侵入は犯罪」であることを指導します。

また、8月24日付の山陽新聞には、今年上半期の県警認知「刑法犯少年」の記事が掲載され、同じような記事がありましたので、掻い摘んでご紹介します。

刑法犯少年 3454 件

～外出自粛影響か～

今年上半期(1～6月)に県警が認知した刑法犯は3454件で、10年連続の減少となり、上半期ベースでは統計が残る1989年以降で最少となった。車上狙いや自転車盗などの窃盗犯が406件減り、全体を押し下げた。県警生活安全企画課は「新型コロナウイルス禍が減少の要因ではないか」とする。一方、住宅などへの忍び込み盗は41件で16件増えており、「鍵かけの確認などを徹底して」と注意を促す。



「 y e s 」

2016年仙台プラザホールで、俳優で歌手の中村雅俊さんがこんな話をされました。

中村さんはビートルズの大ファンで、彼が結婚したての頃、オノヨーコさんが東京に来るという情報を手に入れ、知人たちを駆使して何とかアポを取り、面会をお願いしたそうです。しかし、彼はまだ駆け出して、ましてや世界的に有名なオノヨーコさんが、自分のことを知るはずもなく、きっと断られると覚悟していたそうです。

ところが答えは・・・「y e s」

面会当日、緊張でガチガチになりながらホテルの部屋を訪ね、勇気を出して『私のことを知っていますか?』と尋ねました。すると『いいえ』という答えが返って来ました。続けて『では何で会っていただけたのですか?』と尋ねたら、『no』と言ったら何も始まらない。という言葉が返って来たそうです。

先日BSで立命館アジア太平洋大学学長の出口治明学長も、同じような話をされました。

人生は「イエス」「ノー」ゲームを毎日繰り返しているようなもの。岐路に立った時、まず「イエス」と答えるかどうかでいろんなことが変わります。昼ご飯を食べに行こうと誘われた時、「イエス」と答えるか「仕事があるからパンを買ってきて済ませるよ」と断るか。「イエス」と答えて行った定食屋で運命的な誰かに出会うかもしれない。そういう「イエス」「ノー」の積み重ねが、やがては人生の大きな差になるような気がします。新しい誰かに会えるという意味でも「イエス」を選ぶ。たぶん、「イエス」の方が人生のチャンスは広がると思います。

すべてのスタートは「引き受ける」という「イエス」を言うことから始まる。否定からはなにも生まれないが、肯定からは何か生まれる。なぜなら、肯定的になったときだけに、人はビジョナブル(理想を追い求められる)になり、冒険的になれるからだ。

そのスタートは、まず「イエス」と言うこと。すると、人は冒険的になれる。

20年以上前ですが、同じような話を生徒にして、学級委員や生徒会役員を受けることの意義を生徒に伝え、立候補を促した記憶があります。立候補者が少なかった時代です。

ところが先日、ある中学校の放課後、いつもなら10人以上の部員がいるはずの体育館には、2人の部員しかいません。(どうやら今日は専門委員会があるようです。)

『あなたたちはいいの?』と尋ねると『私たちはジャンケンで負けたので、委員になれませんでした』と答えます。どういう心理が働いているは定かではありませんが、近年では積極的に立候補者が出るので、希望が重なった場合はジャンケンをして決めるのだそうです。そういえば昨年、部活のキャプテンを決める選挙で、3人の3年生が3人とも自分の名前を書いたそうです。そういう状況を見ていて、前向きでいいなと思う反面、代表者には責任が付いてくることを理解しているのか、またジャンケンで決めるべき内容なのかと、疑問も浮かんできます。さらに、積極性、責任感、協調性、公正・公平な態度など、教師はどう指導しているのか、とても気になるころではあります。

「どうなんだろう?」と思いこらけていると、ふと、天才バカボンのパパの『これでいいのだ!』という意味深い?言葉が浮かんで来ました。《天才バカボンをご存知の方は、残念ながら少数派ですね(#^_^#)》

また、今から約5000年前、ピラミッドの建設に携わった人が、ピラミッドの天井裏など、人目に触れない場所に「近頃の若い者は」と書き込んでいることも有名です。

今も昔も若者のやることは、我々年寄りの理解を超えるのでしょうか・・・